

2015年1月 ミャンマー訪問（学会出席・医学生訪問）

作成者：坂口 瑛里

1. The 43rd Myanmar Health Research Congress

1) 学会概要：

名称：第43回ミャンマー保健医学研究学会（The 43rd Myanmar Health Research Congress）

日時：2015年1月8日（木）、9日（金）

場所：ミャンマー保健省医科学研究所（Department of Medical Research）

参加者：

岡田茂（岡山大学名誉教授）

大藤剛宏（准教授、呼吸器外科）

小田慈（教授、小児血管外科）

森田学（教授、予防歯科）

木股敬弘（教授、形成外科）

水川展吉（講師、口腔外科）

片岡仁美（教授、地域医療人材育成講座）

林久美子（臨床工学技師、高度救命救急センター）

伊野英男（教授、医療教育統合開発センター）



2) 学会参加のまとめ：

3) 本学会には、岡山大学より 9 名が参加し、そのうち、医師、歯科医師、そして技師を含む 7 名が演者として参加した。学会 4 日目の 1 月 8 日 (木) のモーニングセッションでは、「医療従事者のための教育」というテーマのもと、地域医療人材育成講座教授の片岡仁美先生が、岡山大学での女性医師のキャリア継続支援の取り組みについて講演した。また、医療教育統合開発センター教授の伊野英男先生は、学生の自発的学習意欲を促す双方向の教育体制の重要性について講演を行った。また、高度救命救急センター臨床工学技師の林久美子氏が、メディカルチームの一員としての臨床工学技師の役割について講演を行った。臨床工学技師については、ミャンマーでは、新しい医療機器が導入されてもメンテナンスを行える技師がおらず、同専門職の必要性が注目される分野であるため、特に反響が大きかった。別会場では、「口腔癌の集団検診および予防」というテーマについて、口腔外科講師の水川展吉先生が、日本における口腔癌の集団検診について、また予防歯科教授の森田学先生が、ミャンマーにおける口腔ケアと口腔衛生の促進について講演を行った。本講演は、ミャンマー側に日本の状況を伝えると共に、本年 (2015 年) 夏に予定しているミャンマーでの口腔癌集団検診の計画を進める上でも、先方カウンターパートとの親交を深める貴重な機会となった。学会 5 日目の 1 月 9 日 (金) のモーニングセッションにおいては、呼吸器外科准教授の大藤剛宏先生が日本における肺移植の現在の状況について講演した。また、小児血管外科教授の小田慈先生が幼少期の悪性血液疾患と日本における最近の治療法とその発展について講演した。いずれも、質疑応答の時間いっぱい積極的な意見交換が行われた。詳細な公演日程および講演内容は別紙 1 (英語表記) の通りである。その他、学会中の休憩時間および昼食の間も、岡山大学医師、歯科医師とミャンマー側医師との交流が積極的に行われた。



(写真：講演の様子)

ミャンマーCP との食事会：

1 月 8 日 (木) (学会 4 日目) の夜は、ヤンゴン市内の Royal Garden にて、食事会が開かれた。ミャンマー側より



Dr. Myo Khin, Dr. Than Sein, Prof. Moe Thuzar, Dr. Moe Thida Htwe, Prof. Swe Swe Win, Dr. Aye Aye Lwin などをお招きし、岡山大学からの学会参加者全員が参加した。そこで、岡山大学の水川先生、森田教授が、今回の口腔がん検診のキーとなる Prof. Swe Swe Win と Dr. Moe Thida Htwe と共に、ミャンマーでの口腔がん検診の詳細な計画について話し合った。(2015 年夏開始予定)



(写真：食事会の様子)